

2015 年度 名古屋大学 前期 英語

I

出題範囲	長文読解
難易度	★★★☆☆
所要時間	20 分
傾向と対策	文章自体も難解なものではなく、設問も取り掛かりやすい問題であったため、この大問にはあまり時間をかけず早めにほかの問題に取り掛かりたい。

本文訳

新しい研究によると、単にスマートフォンが存在するだけで、面と向かっての会話の質を下げるに十分であるそうだ。

最初の観察研究では、コーヒーショップを訪れ、2人組や少人数の集団で座る人の多くが3分から5分おきに携帯電話をチェックしていて、たいてい目の前のテーブルに携帯電話を持っていたり置いていたりするということを研究者は発見した。ヴァージニア工科大学の心理学教授であり研究主任のミスラ・シャリーニは、このことに興味をもち、携帯電話の存在が会話の質にどのように影響を与えるのかを調査するため、次なる実験を行った。

ミスラは、話の最中にスマートフォンを取り出す人がいるような会話において、①参加者は、そんな会話は誰もスマートフォンを取り出さなかった会話よりも充実していないと評価し、相手との関わりが少ないものと感じる、と発見した。ミスラと研究チームによると、「携帯電話は、技術の発展した社会で象徴的な意味をもつ。」7月1日に『環境と行動』というジャーナルに刊行された記事では「スマートフォンがあると人は情報を求め、連絡をチェックし、ほかの人や世界に対して考えを伝えたいという絶え間ない衝動に駆られるのだ。」との結論が出ている。

現実世界の人間の関心が人々から技術関連の娯楽に移る、というのは21世紀の古い話題である。過去の研究が示してきたところによると、人は「インターネットによって情報が過剰になったこと」により、複数の行為を同時に行ったり、絶えず携帯電話やEメール、SNSをチェックしたりしなければいけないと感じるようだ。ミスラによると、人はまた、横の関係を作ることにますます取りつかれつつある。つまり、スマートフォンが人とつながる手段としての機能を果たしている状況で、その場にはいない人との浅い関係の、広い人脈を作らなければならないと感じているようだ。携帯電話をチェックしなければならないという衝動や、②横のネットワークに結びつけられたままである必要を感じ、人が目の前にあるものへの関心が薄れ、それが家族や友人の気分を害しかねないとミスラとその共著者は書いた。

スマートフォンが社会的交流にどのくらいの影響を及ぼしているかを調べるため、ミスラと研究チームはコーヒーショップの客200人を2人組のペアに分けた。彼らはプラスチックのクリスマスツリーについてどう思う

か、どう感じるかのような気軽な議題、もしくは過去 1 年で起こった最も意義のある出来事のようなもっと真剣な議題のどちらかを指定された。その際 1 人の研究者が、与えられた議題について 10 分間会話する間、参加者を観察していた。観察者たちは会話の内容を記録せず、遠くに座って参加者が携帯電話を取り出すかテーブルの上に置いたかだけを記録した。研究者たちの報告によると、100 グループ中 29 組で誰かが携帯電話を取り出したそうだ。会話のあと、参加者たちは自分たちの関係がどのくらい親密か、会話中に相手とどのくらい親密度を感じたか、会話中どのくらい自分たちのパートナーが自分たちを理解したと思ったかを説明する調査に記入するよう指示された。

その研究は、スマートフォンの存在が、人が会話をどのように体験するかに負の影響を与えるということを見出した。スマートフォンを取り出した人がいた会話のほうが、参加者はあまり満足に感じなかったとか、相手の人にあまり共感しなかったと報告した。研究者が年齢や性別、民族、参加者の雰囲気を含めたあとでさえ、その結果は相変わらず同じであった。コーヒーショップの客が現在の出来事について議論するにせよ、プラスチック製の祝日用の木について議論するにせよ、その効果は見られた。言い換えると、会話の議題は、参加者が満足いく会話をしたと感じるかどうかには影響を与えなかったのだ。さらには、ミスラとそのチームは、携帯電話は関係の浅い友人よりも、親密な友人に対してより大きな影響を与えるということを見出した。お互いのことをよく知っている 2 人組では、携帯電話の存在が会話中に感じる会話の質にはるかに悪い影響を与えた。

ミスラが書いたところによると、携帯電話の存在が会話の質を低下させる原因の 1 つは、人は携帯電話に気をとられると、顔の表情の変化や声色の変化のような微妙な手がかりを、見逃しやすいということだ。携帯電話に視線を落としているとき、アイコンタクトも非常に少ない。それゆえ参加者がお互いにあまりつながりを感じなくなるという結果になりうる。

次にミスラとそのチームは、会話中に携帯電話を手にとったり見たりする回数が、どのようにやりとりの質に影響するかを調べたがっている。

解説

(1)

解答例

参加者は、そんな会話は誰もスマートフォンを取り出さなかった会話よりも充実していないと評価し、相手との関わりが少ないと感じた。

・ the participants rated their conversation as less fulfilling and felt less connected to their partner

この部分の前半は rate A as B 「A を B とみなす」という熟語的表現と、feel C 「C と感じる」という表現を中心に構成されているということが読み取ればよく、ここでの A は their conversation, B は less fulfilling にあたる。また、後半は less connected 以下が C となっていることがわかればよい。

・ than in conversations where no one pulled out a smartphone

前の部分の less ～ を受けての比較対象に相当するものがここで表されている。where は関係副詞でうしろに S V からなる完全文を導くことができる。また、ここでの先行詞は conversation であり、where 以下は conversation を修飾しているため、訳出すると「誰もスマートフォンを取り出さない会話」となる。

以上のことを踏まえて訳出すると、解答のようになる。

(2)

解答例

スマートフォンによってつながる、その場にはいない人との浅い関係の広い人脈 (35 語)

下線部の horizontal「横の、水平の」という単語に注目する。下線部の前文にも horizontal という単語があったことを思い出すと、horizontal network と horizontal relationships が同じ内容を表していることがわかる。前文を見ると、horizontal relationships のうしろにその説明が述べられており、vast networks ～ way to connect までをまとめれば解答が導かれる。

(3) **正解は E**

選択肢訳

- A 研究によると、スマートフォンを使うことは便利なだけでなく、我々のコミュニケーションをもっと広くしてくれると示唆されている。
- B その研究はアメリカ、ヴァージニア工科大学のシャリーニ・ミスラによって行われた。
- C 結果が示したところによると、次のような要因、すなわちパートナーの年齢や性別、民族や議題、雰囲気や親密な関係はどれもスマートフォンが取り出される会話の評価に影響を与えなかった。
- D 科学者たちは、スマートフォンが会話中に取り出されると、老人が若者よりもパートナーとのつながりを感じていないのかどうかを見出したかった。
- E その研究は、スマートフォンの存在が、人が会話をどのように体験するかに負の影響を与えるということを発見した。

一般に、各段落の冒頭にはその段落の内容をまとめた内容やその段落の中心となる内容について触れたものが来ることが多い。ここでは空欄アは第 6 段落の冒頭部分にあり、この段落のトピックセンテンスになると思われる。そのため、ここに入る文は第 6 段落の内容をまとめたものであると考えられる。第 6 段落では、会話中にスマートフォンが取り出されると会話に満足感をあまり覚ええない、という内容が述べられていた。同じ内容を述べている文は、選択肢のうちで E のみであるため、解答は E となる。

(4) 正解は (a) assigned (b) understood (c) affects

まず(a)から見ていく。(a)を含む文をまとめると、「彼ら、すなわち研究の参加者たちが気軽な議題かもっと真剣な議題を(a)」となる。文脈から、研究者たちが参加者の議題を指定していたことが窺^{うかが}えるので、「指定する」という意味の assign が当てはまる。続く文中に the given topic 「与えられた議題」とあることから、(a)を含む文中で議題が与えられたむねの内容が書かれているとわかる。なお、(a)の直前に be があり、文脈から受動表現であることがわかるので、解答は assigned となる。

次に(b)についてだが、(b)を含む文では、会話中における会話者の関係性について述べられており、同文中では3つの how 節が同列に扱われている。与えられた選択肢のうち、関係性についての言及について述べることのできる動詞は understand 「理解する」のみである。あとは時制を揃えて understood とすれば解答となる。

最後に(c)についてだが、(c)には how the number ～ から始まる節を主語とした動詞が入り、「人が会話中に携帯電話を手にとったり見たりする回数が、どのようにやりとりの質を(c)」となる。文脈から、(c)に入るのはやりとりの質を左右するような意味を含んだ動詞であることがわかるので、affect 「影響する」が当てはまる。なお、(c)を含む文は現在時制で書かれており、how 節中の the number of times が主語であることから3人称単数現在形の s をつけて affects とすれば解答となる。

表現

urge 「衝動」

overload 「過負荷，程度が過ぎていること」

cultivate 「(関係などを)作る」

tied into 「結びついている」

resentment 「怒り，憤り」

holiday tree 「クリスマスツリー」

cue 「手がかり，合図」

stare down at A 「Aに視線を落とす」

(大西功泰，安藤成希)

2015 年度 名古屋大学 前期 英語

II

出題範囲	長文読解
難易度	★★★★☆
所要時間	25 分
傾向と対策	内容説明問題 2 問と日本語訳 2 問という出題形式は標準的であり、減点と所要時間を最小限に抑えたいところだが、筆者の研究を把握するのが少し難しい。また、最後の段落挿入問題は文章全体の流れをおさえる必要があるため、時間に追われる本番ではかなり苦戦すると予想される。一読したときに各段落のポイントをおさえる意識をつけよう。

本文訳

アリから人まで、動物はどのように個々が共通の利益のためにうまく協同で働くような社会集団を形成することができるのだろうか。チャールズ・ダーウィンは 1859 年にそう疑問を投げかけているが、協同行動の存在を自身の進化論に対する脅威と認めていた。そのような行動は科学における最大の未解決問題の 1 つであり、『Ecology Letters』誌に発表された我々の研究はシャカイハタオリというとても社会的な鳥の助けを借りてその問題に答えようとした。

なぜ動物が利己的に行動するのかはわかりやすい。もし自分の遺伝子を次の世代に伝えようとするなら、自分のことは自分で世話しようとするだろうし、自分の資源を守るだろうし、相手を探して生殖するだろう。どうしてほかの個体を気にすることがあろうか。そのような私利私欲の結果、自然界には争いがはびこっている。しかしそれよりもよく知られていないことは、協力も広く行われており生物学的組織のほとんどすべての段階で観察されうるということである。

ダーウィン以降大きな進歩があり、私たちはいま、動物が協同で働くことでどのように利益を得るかについてはるかにたくさんを知っている。過去数十年の間にかけていくつか重要な理論が展開、検証されてきたが、動物の協力を我々が理解することにおいて (1)血縁選択理論 がもしかすると最も大きな進歩をもたらしたかもしれない。それは 1960 年代にビル・ハミルトンによって提唱され、もしある個体とその親類と協力するなら、この個体は自分の遺伝子を次の世代に間接的に伝えるかもしれないと主張している。現在この理論が家族レベルでの協力に対するおもな説明として一般的に受け入れられている。

(2)しかしながら、協力ははるかに大きな規模で観察することができ、大きな社会集団が繁殖の枠を超えて共通の利益を構築し、維持するためにうまく協同して働いている。血縁選択がどのようにそのような大きな社会集団を促進するのかは、そのような集団の中では普通平均して関連性の度合いが低く、個々が社会的ジレンマに直面するため、あまり一筋縄ではいかない。よく知られて広まっている社会的ジレンマは共有地の悲劇と呼ばれる現

象である。

共有地の悲劇のもとでは、社会的利益は協力している集団において最も高いが、利己的個人は協力的集団のなかでより得になる。もし利己的行動がはびこると公共財は過度に利用され、社会が崩壊するだろう。人間社会の例でいうと、魚資源の乱獲や、気候変動に効率的に対処できないことや、イースター島の原住民社会の崩壊がある。動物たちはどのようにそのような崩壊を避け、見返りに何もすることなく他人の寛容を利用する者を寄せつけないでいるのだろうか。

それを明らかにするため、ベン・ハッチウェル教授率いるシェフィールド大学の我々の研究チームは、モデルシステムとしてシャカイハタオリに注目した。この小さな鳥は極めて社会的で、どんな鳥よりも大きい巣を作る。それは何百もの個体が共同で暮らし、1 トン以上の重さがあり、何十年ももつ。

シャカイハタオリの大きな巣は個々に分かれた部屋から構成されていて、それらは共同の草ぶき屋根の中に埋め込まれている。後者は巣に属する個体による独立の作業が必要で、個々の部屋に対する作業からなるものではない。その草ぶき屋根を研究することによって我々はその鳥たちがどのようにしてその共通の利益を維持するために働くのかを調べることができる。

(3) その鳥たちの行動を詳しく観察し、巣の構成個体間の遺伝的関係を明らかにする検証をした結果、我々は、草ぶき屋根作りに貢献する鳥たちが自分たちの部屋の上でそれをしていたことがわかった。このことは自発的な屋根作りを示唆する。

しかしながら、我々は、これらの作業をする鳥の近隣に住んでいる鳥たちは親類であることがよくあり、その鳥たちも利益を得たことから、このことは草ぶき屋根作りが親類のためになされているかもしれない、ということもわかった。⁽⁴⁾ この考え を確かめようとするにあたり、我々は近隣に住む鳥たちとの関係性が草ぶき屋根作りを予測させるということもわかった。ある個体が近隣の個体と関係が深ければ深いほど、共通の利益に対してより貢献することになりそうだ。

最後に、関係をもつ個体らは部屋を共同利用する傾向があり、したがって親類間の共同作業の恩恵を共有するということがわかった。だからこれらの社会的な鳥たちはよい隣人をもつこと、そして健全な家族関係を維持することから恩恵を得る。間違いなく、我々皆への教訓だ。巣のレベルでは関わりが低いにもかかわらず、その巣の中での親類の社会的組織は親類によって享受される共同利用につながり、同様に、巣全体にとって重要な草ぶき屋根全体にも貢献する。

これは、血縁選択は組織を共同で築き維持するのに必要な動物の努力を促すかもしれないと示す最初の研究であり、したがってある種の組織を築くほかの多くの種に関係があるかもしれない。しかしながら、その最も協力的な種である人間に対しては、我々の研究が明らかにしたメカニズムは直接には当てはまらなさそうだ。

協力の問題に対するほかの解決策も、法や協定の施行のように存在する。もしかすると共有地の悲劇が地球規模で繰り返されることはないことを保証するために、例えば持続可能な漁獲の施行のようなものに我々は目を向けなければならぬかもしれない。

解説

(1)

解答例

ある個体はその親類と協力するときに自分の遺伝子を次の世代に間接的に伝えるかもしれないという理論。

(48 字)

設問自体は標準的である。まず、下線部(1)よりも前に血縁選択理論についての記述は(設問 5 の英文が(ア)に当てはまると仮定したとしても)ないため、下線部のあとを見る。すると下線部の次の文に *it states that* ~ とあり、この *it* が kin selection theory であることから、that 節の中を解答すればよいとわかる。

(2)

解答例

しかしながら、協力ははるかに大きな規模で観察することができ、大きな社会集団が繁殖の枠を超えて共通の利益を構築し、維持するためにうまく協同して働いている。

この 1 文において訳しづらいのは with 以下の付帯状況の分詞構文である。「~しながら」という型どおりの訳が不自然であることは明らかであるので避けるべきだ。付帯状況も含めて、分詞構文は訳しづらいことが多い。例えば、Being with him, she is happy. という文があったとして、「彼がいるなら彼女は幸せだ」としても「彼がいるとき彼女は幸せだ」としても間違いではないように、その 1 文だけ見ると訳に幅ができることがあり、本問の場合も訳しにくいといえる。分詞構文において訳がうまく当てはまらないときは論理関係が変わらない限りで自然な日本語へと意識することも必要である。解答例ではその点に留意した。

(3)

解答例

その鳥たちの行動を詳しく観察し、巣の構成個体間の遺伝的関係を明らかにする検証をした結果、我々は、草ぶき屋根作りに貢献する鳥たちが自分たちの部屋の上でそれをしていたことがわかった。

detailed observations of their behaviour と tests to reveal the genetic relationships among the colony members はともに名詞句であり「その鳥たちの詳細な観察」「巣の構成個体間の遺伝的関係を明らかにする検証」としてもよいが、日本語的に不自然なので解答例では動詞的に訳した。thatch は注にあるように「わら、ヤシの葉、あるいはそれと同様の材料で覆われた屋根」とあるが、straw や palm がわからなければ「屋根」として減点を最小限にしなければならないし、草ぶき屋根という日本語が出てこなければ、注の説明のように「わらやヤシの葉などで覆われた屋根」あるいは「わらの屋根」としてもほかの受験生におくれを取ることはないと思われる。試験で書ける受験生がかなり少ないと予想されるからだ。

主節の did so が, contributed to thatch building であることは, 一読したときに「そうした」と訳したあとに「どうしたのだろう」と考えるとわかりやすい。もちろん, 「そうしていた」と訳しても構わない。

(4)

解答例

(例 1) シャカイハタオリが草ぶき屋根を作るのは, 近隣の親族のためであるという考え。(37 字)

(例 2) 草ぶき屋根作りは近隣の親族のためであるという考え。(25 字)

設問 1 同様, 解答に必要な部分の特定は難しくはない。下線部が that idea であることから, 下線部の前を見ると However, we also found that ~ と続いていることから, 前の段落の内容を盛り込む必要はなく, that 節以下の内容を書けばよいということがわかる。2 つ目の that 節内の as they also benefited について, they は thatchers' neighbours である。この 2 つの that 節をうまくまとめる。シャカイハタオリという固有名詞を出さなくても済む (例 2 参照) ように 20 字以上との指定になっている。

(5) **正解は ケ**

文章全体の流れを把握しておかなければならず, この問題が本問の中で最も難しいといえる。そこで, 読解も兼ねて各段落の内容をまとめることにする。

How can animals ~	科学における最大の未解決問題の 1 つである協同行動の存在を示し, 筆者の研究の導入をしている。
It's easy to see ~	協力が広く行われ, 生物学的組織のほぼ全段階で観察されうるということは, 動物が利己的に行動する理由よりも知られていない。
There has been ~	ある個体が親族との協力により自らの遺伝子を次世代に間接的に伝える可能性を示した血縁選択理論が, 協力の理解において最大の進歩をもたらした。
Cooperation, however ~	家族レベル以上の規模の社会集団でみられる協力と, その集団内の個人が直面する社会的ジレンマの 1 つである共有地の悲劇の導入をしている。
Under the tragedy ~	共有地の悲劇の説明をし, 動物たちがどのように利己的個人による社会集団の崩壊をどのように防いでいるのかという疑問を投げかけている。
To find out ~	筆者の研究チームがモデルシステムとして目を向けたシャカイハタオリの説明。
Their massive nest ~	シャカイハタオリの巣の草ぶき屋根の研究によってその鳥たちがどのようにしてその共通の利益を維持するために働くのかを調べられると述べている。
After detailed ~	研究チームはシャカイハタオリが自分の部屋の真上に草ぶき屋根を作っているということを明らかにした。

However, we also ～	研究チームはシャカイハタオリの草ぶき屋根作りは近隣の親族のためであることも明らかにした。
Finally, we found ～	研究チームは、親類間で部屋を共同利用することを明らかにし、草ぶき屋根作りは親類にも巣全体にも貢献するという事も明らかにした。
Other solutions to ～	法や協定の施行のような協力の問題に対するほかの解決策の存在と、目を向けねばならないものを紹介している。

そして、挿入する段落も要約すると

This is the first study ～	血縁選択は組織を共同で築き維持するのに必要な動物の努力を促すかもしれないと示す最初の研究であるが、人間に対しては直接は当てはまらない。
------------------------------	---

挿入する段落に関して、However から始まる最終文では、筆者の研究が明らかにしたことは人間に直接は当てはまらない、と抽象的に表現しており、人間に関する具体的内容があとに続くと考えられる。人間に関する内容が書かれている段落は最終段落であるとわかるため挿入する英文が最終段落の 1 つ前の段落であることがわかる。この段落について、This が指すのが筆者の研究のどこまでなのか見極めるのが難しい。問題を解くにあたって、kin selection の初出が下線部(1)なのでそれより前の (ア) に入ることはない、また、研究について述べ始めたのが To find out ～ の段落なので、それより前の (ア) (イ) (ウ) (エ) には入らない、といったような絞り込みも有効だ。

表現

common good 「共通の利益」

perceive 「認識する」

set out to V 「Vしようとする」

rife 「流行している」

keep A at bay 「A を寄せつけない」

freeloader 「食客」: 本文の注は「見返りに何も与えることなく他人の寛容さを利用する人」

enforcement 「施行」

agreement 「協定」

(日笠航希, 吉田涼佑)

2015 年度 名古屋大学 前期 英語

III

出題範囲	自由英作文
難易度	★★★☆☆
所要時間	25 分
傾向と対策	内容は小難しいものであるが、本文全体が会話形式であるため読みやすいであろう。設問がすべて英語で表記されており、慣れていない者にとっては多少時間を取られうる大問であった。とはいえ、設問自体は特別難しいものはなかったため、時間のロスを最小限に抑えてほかの大問に移りたい。

本文訳

次の 2 人の友人同士の会話を読み、あとに続く質問に英語で答えよ。

Mel : 将来自分はどこに住んでと思う？

Kat : 仕事が見つけれるところならどこでもかな。

Mel : じゃあ、どこに住むかはあなたにとって重要じゃないの？

Kat : もちろん気にするけど、最優先ではないわ。まず職に就かないと。そうしなきゃ生きていくこともできないわよ。あなたは働く場所よりも住む場所のほうが重要だって思ってるの？

Mel : ちょっと違うの。私はどっちも重要だってわかってるわ。でも将来住む場所については本当にたくさん考
えてるの。

Kat : それじゃあ、どこ？

Mel : 当ててみて。

Kat : たぶん、郊外にある庭つきの大きくて素敵な家ね。2 人の子どもに犬と猫がいるんじゃない？

Mel : 近くもないわ。

Kat : わかった、猫じゃないのね。魚だわ。

Mel : 違うわ、ペットだけじゃないの。あなたが言ったことほとんど全部よ。私、実は田舎に住みたいの。海に
近かったり、少なくとも川のそばとかにね。

Kat : 本当？ それを聞いて驚いたわ。実は私、あなたを裕福な中流階級で郊外に住んでいる人だと思っていた
の。

Mel : うーん、正直なところ、何となく私もそうだと思っていたんだけどね。でも数カ月前、私はどんな環境が
人を最も幸せにするかを調査した研究について読んだの。

Kat : このごろ、幸福についての優れた研究がとてまたくさんあるからね。何が見つかったの？

Mel : 私が読んだ記事の著者によるとね、人間は緑いっぱいの場所や水辺に住むと、より幸せを感じる傾向にあるってことを示す研究がたくさんあるんだって。

Kat : 面白いね。あっ、ここのサラダ本当においしいわね。

Mel : 水辺に住むと人は幸せになるってわかったの。

Kat : 彼らはどうやってそれを考え出したの？

Mel : えっと、いろんな方法があるの。たとえば、異なる環境に住む人にどれくらい幸せか尋ねるとか。経年的な研究もあったわ。だから彼らは、環境を変えると特定の人の幸福度に何が起こるかを知ることができたのよ。

Kat : ああ、わかった。でも、あなたは調査で人が本当に真実を話していると信じているの？ 特に幸福のようなテーマについての調査なんて。

Mel : 人は本当に幸福の意味を知っているのかな？ でも、それが唯一の研究ってわけじゃないの。ストレスホルモンみたいな体内の化学物質がそれによってどのように変わるかを知るために、実生活や写真の中の景色を見ている人間で研究したのよ。実際、緑の風景と水を含んだ景色が最も効果的だったと彼らは発見したの。

Kat : じゃあ、あなたは海辺の近くの田舎に住むつもりなの？ それはいいわね。塩を取ってくれない？ でもそこで仕事を見つけられなかったらどうするの？

Mel : 通勤すると思うわ。実際、やっぱり私は都会で働きたいもの。

Kat : ほらね。私はやっぱり職場の近くの都会に住みたいなあ。もし片道 1 時間かかるなら、毎日 2 時間以上も混んだ道を運転したり電車に乗ったりすることになるのよ。通勤にそんなに時間をかけて本当に幸せになれるのかしら？ 私はもっと自由な時間が欲しいわ。そのほうがストレスの少ない幸せな人生になるってわかってるもの。

Mel : ええ、それは時間か場所かの問題だと思うわ。私はどんな人生を送りたいかの理想像をもってるけど、現実には常にもっと複雑。そうでしょ？

Kat : たぶんあなただったら都会に住んでも素敵な庭をもちそうね。もしかしたらさっき言ったように魚のいる池だってつけてるかも。

Mel : あなたは私が魚を飼ってるって確信してるのね。実は、その研究者たちは人間の裕福さには魚よりも水のほうが重要だといっていたわ。空っぽの水槽を見るだけで人は心地よく感じるのよ。

Kat : じゃあ、どうして人はそんなに水と緑が好きなの？

Mel : 彼らの研究によるとね、そういった場所は人間の起源となった場所で、心地よく感じるからだろうということよ。私たちはかつて自然の中で住んでいたわ。ずっとずっと昔には、たぶん魚だったの。それか海の生き物ね。だからなんとなく家に帰ったような気がするの。でも実際には、まだ完全に確信はしていないと認めているわ。

解説

- (1)
- 正解は (1) important (2) surroundings (3) proximity (4) discussion (5) impact (6) well-being**

問題文訳

最も適切な会話の要約になるように下のリストの単語を用いて以下の文の空欄を埋めよ。どの単語も 2 回以上用いてはならない。

会話は、将来のことを考えたときに、住むための(2)や働くための(3)のどちらが最も(1)かについて友人が話している場面から始まっている。これが人々の(6)に環境が与える(5)に基づいて行われた研究の(4)につながる。

文章の流れを追っていけばキーワードを当てはめるだけで解ける問題である。まず選択肢に目を通すと、形容詞または名詞のみしかないのである。そこで、(1)~(6)に当てはまるべき品詞をそれぞれ考えていくと、(1)は most に続く最上級の形と考えられるので形容詞。(2)以降はすべて、冠詞や前置詞のうしろにあることから名詞と考えられる。以上のことを踏まえたうえで(1)~(3)から考えていく。まず 2 回目の Mel の発言から始まる内容で、どこに住むか・どこで働くかのどちらが重要か話されているとわかる。そこでの Mel の意見は 6 回目の発言にあるように、住む環境によって幸福度が変化するため水と緑が近くにある田舎に住みたいというもので、Kat の意見は 12 回目の発言にあるように、通勤に時間のかからない職場の近くに住みたいというものである。これらから、(1)に入るのは「重要性」を表す形容詞であり、(2),(3)に入るのはそれぞれ「住む環境」、「職場からの距離関係」に関する名詞であると考えられる。よって(1)に入るのは important 「重要な」、(2)に入るのは surroundings 「環境」、(3)に入るのは proximity 「(時間・距離的な) 近さ」であることがわかる。そしてこの会話の流れの中、Mel が 7 回目の発言で環境が幸福度に与える影響についての研究の話を持ち出し、そこからそれについての議論が展開される。以上のことから(4)に入るのは discussion 「議論」、(5)に入るのは impact 「影響」、(6)に入るのは well-being 「幸福」であることがわかる。

- (2)
- 正解は D**

問題文訳

会話にもとづくと、次のうちどれが最も適当であるか。

- (A) Mel は郊外に住むことなど考えたことがなかった。
- (B) Kat は幸福についての調査は価値がないと思っている。
- (C) Mel は田舎で職を見つけたいと思っている。
- (D) Kat は住む場所よりも職のほうを心配している。
- (E) Kat にとって最も重要なのは郊外にある大きくて素敵な家だ。

選択肢について 1 つずつ検討していく。(A)についてだが、Kat の 6 回目の発言とそれに対する Mel の発言で、Mel は中流階級で郊外に住んでいるということが述べられているので、郊外居住者の Mel が郊外に住むこ

とを考えたことがないはずがないため不適。(B)については、Kat の 10 回目の発言で調査の正確性について懐疑的な態度をとっているものの、続く Mel の調査に関する発言を受け入れているため価値がないと思っているとは断言できない。そもそもそのような記述がないためこの選択肢も不適である。(C)については、確かに Mel は 6 回目の発言で田舎に住みたいとは述べているが、Mel の 12 回目の発言で、都会で働きたいとはっきり述べられているため、Mel は田舎での雇用を望んでいるわけではないとわかる。よって不適。(D)について、Kat の 2 回目の発言において Kat は住む場所よりも就職を優先するといっているのが正しい。(E)については、このような記述はどこにもない。何度も述べるように、Kat にとって最も重要なのは職に関することであり、どのような家に住むかは述べられていない。よって不適。

(3)

解答例

Wow, they do really good salads here.

Could you pass the salt?

問題文訳

Kat と Mel との会話がレストランで行われている、ということを本文中の 2 つの文にもとづいて推測できる。その 2 つの文を見つけて書き出さない。

本文に目を通してみると、Kat の発言中におもな内容とはまったく関係のない文があることがわかるだろう。8 回目の発言での「あっ、ここのサラダ本当においしいわね。」という言葉や、11 回目の発言での「塩を取ってくれない?」といった言葉がそうである。これらの発言中の「サラダ」や「塩」といった単語は本文の内容に関係なく、レストランでの食事などを連想させるものである。よってこれらの文が答えとなる。

(4) **正解は green landscape water****問題文訳**

会話中で言及された、体内の化学物質の変化を測定する調査によると、どの 2 つの要素が混ぜ合わされたときに最も有益な効果があるか。

Mel の 11 回目の発言で、体内の化学物質の変化について述べられている。同発言の最終文で、「実際、緑の風景や水を含んだ景色が最も効果的だったと彼らは発見したの。」という文があることから、答えは green landscape と water である。

(5)

解答例

(例 1) I agree because it is good for health to live in nature. The air in nature is clean and fresh that people are less susceptible to diseases. Moreover, it is more likely that people will be careful and conscious about their natural surroundings. (43 words)

(例 2) I disagree because it is inconvenient for people to live in nature. It takes a lot of time for them to even go shopping. Besides, especially near the water, the damage caused by natural disasters like typhoons can be more serious than in urban areas. (44 words)

問題文訳

自然に近い場所に住むことが重要だということにあなたは同意しますか？「私は同意する、なぜなら～」または「私は反対する、なぜなら～」のどちらかで始め、自分の意見を述べなさい。またその意見を自分の言葉で 2 つの理由を使うことで正当化しなさい。3 つの要求単語を含めて約 40～50 語の英語で書きなさい。
(作文の最後に書いた文字数を明示しなさい。コンマやピリオドのような読点を 1 語として数えないこと。)

理由を 2 つ挙げること、と明確な指示が与えられているので形式的な面では比較的書きやすいと思われる。構造としては、まず 1 つ目の理由を書いたあとに moreover 「さらに」、besides 「加えて」などをつないで 2 つ目の理由を述べていくのがよいだろう。

賛成派の理由として考えられるのは、解答例に書いたような「健康」や「環境意識」に関連する利点だろう。反対派では自然の中での「不便さ」と「自然災害」の観点から述べた。解答例にはこれらの理由を挙げたが、英作文では、自分の書ける理由から自分の立場を決め、全体を構成していくのがよい。また、設問の指示で「自分の言葉」で書くことが求められているため、本文中の単語やフレーズをそのまま使うということは避けたい。さらに、賛成か反対かのどちらかの立場を選んで記述すること、と指示されているにもかかわらず「賛成でも反対でもどちらでもない。自然に住むことはこのような利点もあるがこのような欠点もあるからだ。」といったような、自分の立場を明確にせず、折衷意見を表すような英文では点は見込めないであろうから気をつけたい。

表現

comfortable 「暮らしぶりの楽な、経済的に不自由のない」

suburbanite 「郊外居住者」

setting 「環境」

longitudinal 「経年的な、長期の」

proximity 「(時間・距離的な) 近さ」

composition 「作文」

punctuation 「句読点」

(大西功泰, 安藤成希)

2015 年度 名古屋大学 前期 英語

IV

出題範囲	和文英訳
難易度	★★★☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	3問とも1文の英訳で、とても難しいという箇所はなかったが、細かいミスを防ぎ、うまく言い換えられるかが出来栄えに影響を及ぼしたと思われる。単複のミスや自動詞と他動詞の使い分けのミスなどがないかどうか、日頃の演習で確認する習慣をつけよう。

解答例

(1)

How do human beings learn the meaning of words through their own body movements and interactions with other people?

(2)

These all are the fundamental questions on communication, and also the quite important ones that lead us to practice medical care, disaster prevention, education, and many other things.

(3)

(例1) Communication is nothing but the fundamental function of human beings and society for our coexistence and sharing of information.

(例2) Communication is the very fundamental function that enables people to exist together and share information.

解説

(1)

下線部は文章の2文目に引かれており、代名詞の特定をする必要はないことがわかる。「身につける」は「習得する」といった意味で捉えると learn や acquire を使うことができる。ここで、put on を使ってはいけない。put on は衣服を身につけるときに使うからだ。「put on で (衣服を) 身につけるだったな、言葉の意味を身につける、という使い方はしたことないけど、そういう用法で使ってもまあ大丈夫か」というような発想が英作文では1番危険だ。自分が使える表現しか書いてはいけなし、そのような表現を増やすのが英作文の勉強の1つである。put on を書くよりは、understand the meanings of words とするほうが減点される可能性ははるかに小さいであろう。「身体の動き」は movement のほかに action や motion といった単語もある。physical movement としてもよい。また、「他者」は other people を使うとよい。others も使えるが、例えば「他人のお金」とした

ときに、other people を使うと other people's money となるが、others を使うと others' money とる。このときアポストロフィーの位置を間違えて other's money にするというミスをしやすい。このような細かいミスを減らすためにも日頃から other people を使うほうが無難であろう。

(2)

代名詞「これら」は下線部(1)の文とそれ以降の 3 文に書かれている問いかけのことである。「コミュニケーションについての問い」は「コミュニケーション」が学問的な事柄だと判断して前置詞 on を使ったが、about を使ってもよい。「基本的な」は fundamental や basic を用いることが多いが、類語辞典を引くと、fundamental と一緒によく用いられる名詞の例として change, importance, question などが挙げられており、basic は information, training などが挙げられている。したがって、basic question より fundamental question のほうが適切であると考えられる。basic と fundamental のニュアンスの違いも載っているため、類語辞典を一読するのもよいだろう。単語を覚えるときも、fundamental question や put on my clothes のように、フレーズとして覚えないと英作文では使えないので、フレーズで覚えることを意識しよう。医療は medical でも medical treatment でもよい。「結びつく」は「関係する」と捉えて the quite important question which is related to the practice of ~ や、the quite important question which has a relation to the practice of ~ などとしてもよい。

(3)

「ほかならない」が本問の最大の難所だろう。解答例のほかにも be none other than ~ や be nothing less than ~ といった表現が使える。英作文という観点からすれば、どれか 1 つを使えるようになればよいのかもしれないが、読解で出てきたときに訳せるように、できるだけ多く覚えておこう。また、「まさしくそうである」という意味から転じて「まさに根本的な機能だ」と捉えて、the very fundamental function としてもよい。

また、「人々が共存し、情報を共有するのを助ける機能」と捉えて、function that helps people exist together and share information としてもよい。このように、英作文においては名詞の形で書くよりも動詞を用いて書くほうが容易である。例えば、She acknowledged her failure と her acknowledgement of her failure だと前者のほうが明らかに書きやすい。和文が名詞の形で書いてあったとき、動詞を使って書くことができるかどうか日頃から意識してチャレンジしてみるのもよい。(例 2) は動詞の形を意識した解答になっている。enable を使っているが、「人々の共存と情報の共有のための機能」から転じて「その機能によって人々は共存し、情報を共有できる」と解釈した。(例 1) の coexistence や sharing (または share) of information は本番で書くのは難しいと思われるので、(例 2) を特に参考にしてほしい。

(日笠航希, 吉田涼佑)